



学びの場（南条小学校6年生の卒業式、舞台上に整列し歌う63名の卒業生）

Contents

- ① 学びの場(南条小学校卒業式)
- ② 町議会3月定例会報告
- ③ 一般質問
⑦ (生駒一義、森昭義、南康夫、平泉初男、
坪川伸理、山本優、加藤伊平、平谷弘子)
- 議会活動報告
- ⑧ 表紙説明・解説
「巣立ち」南条小学校卒業証書授与式
編集後記



奥野校長より一人ひとりに卒業証書が手渡されました。

3月議会定例会報告

3月4日から18日までの15日間の会期で新年度予算・補正予算・条例の改正など50議案を審議、原案どおり可決された。人権擁護委員の推薦については、甲斐城の神戸一喜氏に対し同意した。

常任委員会報告

各常任委員会付託分、審議の結果原案どおり可決。なお、議案審査の過程で、特に意見した事項は次のとおり。

●総務文教常任委員会

意見 1 「当初予算人件費」 昨年度より6名少なくなっている。人件費の縮減は留意すべき。急激な削減・非正規化は町業務の質の低下を失いかねない、十分検討のうえ正規職員の確保を。

回答 平成27年度から5力年を計画年度とする。「定員適正化計画」により、職員の適正な定員管理を行う。平成28年度の減員は、スキー場の民間への指定管理導入

と教育委員会今庄・河野の両事務所廃止に伴うもの、今後、業務の見直し等による減員を除き、住民サービスの低下を招かぬよう正職員の確保を図る。

意見 2 今庄プロジェクトは最終的な目標・ビジョンが見えていない。

地元と共生できる強いリーダーシップを持つ役場職員を配置すべき。

回答 協議会が目指す組織体制が確立できるように支援を行っていく。

意見 3 ケーブルテレビ「レッツツマイビデオ」の特派員の養成、増員を図りたい。

回答 毎年、広報紙で募集を行っている。引き続き、「ふるさと特派員」として募集を行っていく。

意見 4 「超高速通信環境整備事業」は、数年後に迫られる町が経営するケーブルテレビ回線施設の更新と巨額の二重投資にならないか。

回答 町が経営するケーブルテレビ施設の更新も考慮して光化事

業に取り組むことで、二重投資とならないようにする。

意見 5 小中学校の統合問題が報道されたが、情報の流出には注意を払うべきである。

回答 議会に対して説明・協議が済んでいない重要な事項は、情報管理を今後、十分注意する。

意見 6 新年度予算に、小中学校再編計画住民アンケート費が計上されている。取り方や対象者は限定されたものでなく、地元の意見を十分組み入れるべきである。

回答 小中学校再編計画の検討委員会に、7小中学校のPTA代表や各地区の代表に入っていたら、アンケート内容や対象者については、意見を反映したものと、議会へも提示する。

●産建厚生常任委員会

意見 1 保健福祉課は、多くの職員を擁する診療所・老健施設・保育所などがある、町職員の約半数を抱え、定期的に職場に顔を出すなど、業務内容、仕事の軽重を慎重にチェックされたい。

回答 各保育所は、課直轄となっ

ているが、今庄診療所、河野診療所、今庄老人保健施設は、医療保健室を配置して管理している。現在、不定期だが必要に応じて施設へ出向しているが、今後、各施設の施設長や所長等との連絡を密にし、時間調整等を行っていききたい。

意見 2 補助金は、捕獲頭数により年々増額傾向にあるが、捕獲数より、新たに生まれる個体数が多い。罾や檻などその方法を工夫し、捕獲した獣の処理施設の整備、個体をジビエとして有効活用する新たな対策を検討されたい。

回答 地域住民や猟友会等の協力を得ながらこれまで以上に捕獲の推進及び効果的な捕獲方法についても検討していく。

意見 3 一部の排水処理施設からは、天候、風向きなどで異臭が気になることがある。設備の性能など再度見直されたい。

回答 関連機器等を計画的に更新するなど、地域住民に十分配慮した対策を講じていく。

○陳情・要請等は今回提出なし。

一般質問



生駒 一義

1 災害時の応援協定について

問 災害時の協定は、どの程度の災害発生時に適応されるのか。

答 永平寺町と岐阜県羽島市と「災害時の相互援助協定」を結んでいる。甚大な災害が発生したとき町単独で対応が不可能な場合、物的、人的支援を行う。

問 原子力災害時にどのような方法で避難するのか。

答 一般住民は、自家用車で、高齢者等は、町が用意したバス等により高速道路を利用して避難する。

問 県外への避難又は訓練の実施の有無は。

答 必要な時を想定し、羽島市との協議を探りたい。避難訓練は実施したい。

2 ケーブルTVの減免について

問 ケーブルテレビの減免対象者のうち、半数近くの人が申請書の提出をしていないために減免を受けていない。申請書の提出を撤廃してはどうか。

答 ケーブルテレビ事業は独立採算制で応分の負担が原則になっている。申請を受けて課税状況等を勘案し減免を行っている。今後は、制度を理解していない方等に対し周知徹底する。

3 漁業の振興について

問 後継者対策について。

答 県漁連のHPで求人情報を発信している。県外の若い2名が応募し漁業に従事している。県外からの定住は過疎化防止となる。

問 若者の漁業支援策について。

答 新規就業者には、県、沿岸市町、漁協で構



成する「ふくい水産カレッジ」が漁業現場で一定期間研修と、この間の生活支援を行う。

問 魚礁の設置、漁港施設整備について。

答 県に大型魚礁の早期設置を沖に要望中。各漁港の施設の長寿命化の機能診断を行う。28年度は、河野漁港の高上げを行う。甲楽城、糠漁港整備は計画的に行っていく。



森 昭義

1 過疎自立促進の高齢者介護の取組について

問 過疎地域に指定されている当町の介護の現状について、介護認定を受けている方の数は。

答 平成28年1月末での要介護認定者数は689人、要支援認定者数は155人となっており、65歳以上の高齢者数に占める割合は、18.7%となっている。

問 要介護認定を受けている方

で、施設入所における待機者の数は。また、その対策は。

答 現在、要介護3以上の認定を受けている方266人のうち、在宅サービスを利用しながら家族が介護している方や、施設の入所待ちの方の数は99人となっております。この中で、施設入所待ちの数は44名で、以前に比べかなり減少している。



今後の対策としては、町民限定での利用となっている地域密着型の介護施設の効果的な利用促進を図っていきたくと考えている。

2 認知症高齢者の徘徊対策について

問 高齢者が今後益々増加していく中、認知症高齢者の徘徊等に対する対策は。

答 認知症高齢者やその家族が、

認知症があっても安心して地域で生活を続けていけるよう、町では認知症高齢者等徘徊SOSネットワークを立ち上げ、徘徊等による行方不明者の情報共有に努め、早期の発見・保護につなげていくこととしている。今後も、ネットワーカーの拡大と町民の皆様への周知に努め、安全安心で住み良いまちづくりを目指していく。

3 町の基幹産業について

問 農業者が高齢化により耕作放棄地とならないための救済策は。

答 本町では農地集積施策として認定農業者また集落営農による耕作を全体の約60%、面積にして690haが耕作されている。また中間管理機構によって10年間白紙委任制度を取り入れ、保全管理を実施していく。

4 新幹線の開業による影響について

問 並行在来線の影響と対策は。

答 在来線は、通勤・通学など欠かせない交通機関であり充分配慮

する。町内4駅は存続するよう努力する。運賃についても調査結果を基に県へ要請する。

5 財政運営について

問 持続可能な町の財政運営は。

答 限られた財源を効果的な施策に展開し、各基金の造成や増額も図っていく。



南 康夫

1 高齢者の運転免許返納後の支援について

問 返納者数の推移と見直し、返納後の支援の現状と課題、住民利用バスなどの運行、利用の現状は。

答 増加傾向にある高齢者の交通事故を減少させるため、65歳以上の高齢者を対象に自主的に返納していただく制度を平成23年4月より実施している。およそ5年で87名が返納されており、団塊の世代が65歳を超えた現在、さらに返納

者は増える見込み。町ではバスの回数券や温泉の利用券、タクシー利用券など2万円相当分の支援を行っている。但し、有効期限があり一回のみの支援のため、後の支援についても検討する必要がある。バスの運行は南条が2路線、今庄3路線、河野1路線で1回乗車で100円。しかし乗車率の低い路線もあり今後利用予定の方など、幅広い意見を参考に計画改定を行いたい。

2 今庄総合事務所エリア一帯の将来の構想、展望について

問 エリア一帯の施設で現在のニーズに合わなくなっているものがあり、将来を見据えた全体の方を見直す時期。各施設の推移から、現状をいかに認識し、どのような構想や展望があるのか。

答 現在、総合事務所のほか診療所・公民館・図書館・郵便局など公共施設が集約され誰もが気軽に利用できる空間で、大雪や災害時の避難や駐車スペース、イベントなど多目的にできるフリースペー

スも必要だ。町民プールは使用されていない現状で、テニスコートも年50回以上の利用が今では年10回程度。サイクリンググタミナルはピーク時



より半減している。今後は有効活用の方、新施設の配置や規模について十分検討し、一体的なエリアとして中長期的に整備することが必要と考える。



平泉初男

1 鉢伏山一帯の指定管理について

問 鉢伏山一帯の指定管理業者が決定され、4月から新規業務開始となる。契約にあたっての基本条項、基本構想の内容は。

答 兵庫県に本社を置く(株)マツクアースを指定。スキー場を完全民営化ではなく、町の業務を代行する事業者で、町と指定管理者が定期的に管理運営委員会を開き方針や考え方を共有していく。

2 夜叉ヶ池道路の整備について

問 未舗装区間は悪路となっており、路肩の崩れ等、危険な状態。早期の工事着工を。併せて、広野ダムの周回道路の落石除去等の整備について今後の対策は。

答 第2次町総合計画の実施計画において平成30年度から着手する計画。ダム周辺の北側は県道、南側は町道で毎年雪解けに補修など実施している。今年度は降雪も少なくて早期に実施する予定。

3 前田川取水口管理について

問 今庄の町中を通り日野川へ合流する用水路。大雨で増水するたびに、稲荷区の方が人力で対処している。堆積土砂、流木除去等、今後の対応は。

答 27年度に集落要望があり、取

水口周辺の浚渫(土砂を取り除く)を丹南土木が実施した。河川の土砂堆積に



については、地元区長や奉仕作業をされている方々と調整しながら検討していく。

4 鳥獣害の処理・加工施設について

問 この問題は度々議論されてきた。捕獲頭数は年々増えているのだが、個体数は年々増加の傾向にある。死骸処理に埋設場所確保、労力と時間を要するため、捕獲後の処理を安心して出来るような設備を是非作っていただきたい。

答 国、県、関係市町と十分協議し、地元猟友会、地域住民の理解を得て、嶺北地域に食肉加工処理施設整備計画(案)を策定していきたい。今後更に有害鳥獣の捕獲、

駆除、処分等を実施し、有害鳥獣個体の適正管理に努める。



坪川伸理

1 SNSの活用について

問 26年12月議会でも質問したが、当町ではSNSを活用する考えは。

答 町の信用を失う等のデメリットがあり活用については慎重な対応が必要である。他市町の対応状況を確認し電子媒体による行政情報の有効な発信の組合せを検討していく。

問 HPは受け身の媒体、行政情報防災情報・不審者情報等をSNSで発信する事は町外へ仕事に行っている町民に知らせる意味でも有効と思う。前回と同じく検討すると言われたが、いつまでか。

答 有効性については情報が必要な人にすぐ伝わる事、若者層への情報発信が有効というメリットが

ある。半年後の運用開始を目的に予算計上、利用規定の策定、職員研修と考えている。

問 観光情報を所管する産業振興課長のお考えは？半年後の運用開始では町内3大イベントが終わってしまうが

答 観光サイトでのSNS運用開始については、5月22日の「そば祭り」に間に合うよう関係部署と協議を進める。

2 高速大容量通信網(光ファイバー)整備について

問 新年度予算において整備予算を計上されたことに感謝する。については、具体的な工程について伺いたい。

答 4月中に民間通信事業者を選定し、6月から翌年3月にかけて設計・工事を行う。申込受付は平成29年3月から民間通信事業者が開始する予定となっている。

問 これまでにも何度も言っているが待ち望んでいる町民がいる。工程を短縮してもらいたい。

答 工程の短縮については、選定

した民間通信事業者とできるだけだけ工程を短縮するよう協議する。



山本 優

1 18歳選挙年齢実施にあたって

問 今年の参議院選挙から18歳以上の少年に選挙権が与えられることとなるが、高校、中学生へはどのような対応をしているか、体験として、中学生の町議会の傍聴をしてもらってはどうか

答 昨年の国会で成立した公職選挙法で新たに有権者となる若者に対する教育は、民主主義の根幹である選挙の意義について十分な指導が必要と考え、高校が行う主催者教育に町の選管職員を「18歳選挙権伝道師」として出前講座に2回派遣している。

今後さらに、住民に対してはCATVやチラシ配布などで選挙啓発に務めていく。小中学生においても政治意識の醸成は大切なもの

であると認識している。

答 現在、小中学の社会科の時間に日本国憲法から国の政治、選挙制度などの指導を行っている。

中学生の町議会の傍聴は、生きた教材となる現場を体験することは有効な手段であると考え、学校と検討・調整したいと考える。

意見 議員は、今の町、将来の町、教育など町長はじめ理事者と議論することが出来、それが実現して行く事は素晴らしい仕事だと思っている。議会傍聴などで身近な政治の場を見ることは、私たち議員の後継者を育成するための一つの方策と考える。関係個所と協議され、実現することを期待します。

2 次の世代の育成について

問 町政や地域、集落の課題に対し若い世代の関わりについて、文化、福祉、教育、スポーツ、ボランティア活動など町の行政を補完するグループ団体がありますが、町を支える次の年代が育っているのかどうか説明願います。

答 町としては青年組織の活性化

により、将来的に住みよい町づくりの中心となってくれることを望んでいる。

地域青年組織の活動や新規団体の設立については、柔軟にバックアップしていきたい。

また、毎年、県教委と青年館の実施する「青年団体支援フォーラム」など



に成人式実行委員など若い人に参加の呼びかけを行いリーダーの発掘を図っている。

きたい。

意見 基本的には、青少年の活動は自主的なものであるべきであるが、主催者としての教育と併せ活動を進めるための技術的なことも大人が指導する必要があると考えるので生涯教育と併せ、社会教育の面から積極的な指導を願っている。



加藤伊平

1 教育環境の整備と定住促進策について

問 越前市では小中学校の全教室にスクリーン、パソコンなどのICT学習セットが配置され、デジタル教科書も小学校で4教科、中学校で5教科導入されているが、当町ではセットは2クラスに1台、教科書は小学校2教科のみで遅れている。

またエアコンは県内では普通教室には100%設置済みの市町がほとんどだが、当町は中学校3年生の教室のみ、小学校は一部の学校を除いてゼロという状況。新年度予算ではどうなっているのか

答 ICT機器もエアコンも他市町とは遅れているのは事実。来年度ICT機器は、小中学校ともすべての普通教室に設置し、デジタル教科書も小学校は主要4教科、中学校は主要5教科を導入する予

算を計上している。

空調機器は来年度、普通教室などへの設置を中心に設置に必要な調査・設計業務委託費用を計上。29年度以降順次、空調機器の整備を行う。

問 人口減少の時代、定住促進には全国の市町村が取り組んでおり、競争である。施策も「子育て支援」や「住宅政策」だけでなく「教育、保健、福祉その他の施策」を総動員し、他市町に比べ優れている処があればそれをアピールし定住・移住の促進を図るべき。国の補助金のつく大型施策だけでなく細かい施策も町長がリーダーシップを取って実施し、町民が住みやすい定住促進を考えて欲しい。

答 当町の人口は、合併時から平成27年までの10年間で1,475人減り10,799人となっている。昨年の町民アンケートでは町に愛着はあるが、結婚や就職などの理由で、出ていかざるを得ないという結果が出ている。

平成27年度は子育て支援として、南条こども園の整備を進め、また、

若い世代の定住化を促進するため、南条こども園の東に団地を造成し、合わせて500万円の助成を行っている。28年度には、子育て世帯の負担軽減のため、子ども医療費の完全無料化、インフルエンザ予防接種費用一部助成などを行う。また南条保育所跡地を宅地化し、若者向け町営住宅の整備も進める。

若い世代の結婚・出産・子育てに対する希望が叶えられるよう支援を行うとともに、細やかな施策を幅広い年代に対して実施していきたい。これらを情報発信すること、町の住みやすさをPRし、町外からの移住者を増やしたい。



平谷弘子

1 新今庄総合事務所について

問 新施設の着手にあたって町長のお考えをお聞きたいします。今後の維持管理費の面やバリアフ

リー化など、時代の変化に対応できるよう、



広い土地でもあり木造平屋建て今庄小学校で使用された地元木材での施工は可能か。又、

予定する全体像は。

答 現在の仮事務所（保健センター）を有効活用し、建設面積は旧建物の3分の1程度の見込み。診療所・総合事務所・公民館・図書館を集約化することで利便性も一層高まる。平屋建ても可能と考えている。建物の構造については、町有林の生育状況など調査を行い、建設費や維持管理費に係る費用等を総合的に検討し、町民から親しみもたれる施設となるよう考える。公民館機能に必要な部屋数は、総合事務所の会議室と兼用できる形を考えている。新ホールの収容人数は催しによって異なるが最大200人程度を予定している。

議会活動報告

主な活動

- ◆ 1月10日 町成人式(文化会館)
- ◆ 1月11日 南越前町「消防出初式」(ウォーターランド南条イベント広場)
- ◆ 1月16日 第41回水仙まつり開会式(アクティブハウス越前)
- ◆ 2月18日 南越前町・永平寺町

災害時相互応援協定調印式(永平寺町)

◆ 2月19、20日 羽島市議員と意見交換会、北前船主

の館右近家視察

◆ 3月1日 国道365号「栃ノ木峠」の道路

改築要望(国交省近畿地方整備局)

◆ 3月16日

南条こども園視察

◆ 3月24日 南条こども園落成式



表紙の説明・解説

「巣立ち」

南条小学校卒業証書授与式

二十七年年度の表紙の「学びの場」は、今回の南条小学校で一区切りです。今回は、なるべく多くの顔を載せたくて、ステージの上で合唱する卒業生を連写で撮影しました。みんなが口を開け元気に歌った一枚がこの写真です。

卒業式と言えば「仰げば尊し」を思い出しますが、歌詞が小学生には理解しにくいこともあって、南条小では十年ほど前から歌わなくなりました。他の学校でも同様で「旅立ちや」「巣立ちの歌」など、いくつかある卒業ソングの中から学校ごとに選んで歌っています。南条小学校では「旅立ちの日に」を使っています。



式の流れも徐々に変わって、ほ

ぼ今の形になったのは、小学校の改革に伴い大きな体育館ができてからです。卒業証書授与のときにはバツクに小さい時と現在の顔写真を映したり、将来の夢を紹介したりするなどの演出の工夫をしています。



卒業式の形式については、文科省から国旗、国歌についての指導はありますが、進行の形式については特に指示はなく学校独自の形で行うこととしています。

次に、卒業式についてそれぞれ臨んでいるのか聞いてみました。

学校では最も大切な行事で、子供が立派に成長した姿を保護者に見てもらおう事、来賓の方々には、将来町を担ってもらおう大切な後継者として期待をしていたり、保護者にとっては自分の子供が立派に育っている姿に接し、苦勞を振り返り、在校生にとっては昨日まで兄として姉として面倒を見て

くれたことに感謝する場とする事です。卒業生にとっては、感謝の気持ちと中学校への期待と不安を持ちながら六年間の集大成としてその事をイメージし、歌に言葉に託して表現していました。

特に、六年生のときには、最高学年として、児童会活動などで常に全体をリードする立場となり、苦勞しながらも学校行事を作り上げました。

また、修学旅行の見学先を外国語活動の中に取り入れたり、学習発表会で発表したりするなど、多くの思い出を胸に六十三名は旅立っていました。

校長先生は、式辞の中で、卒業生へのはなむけの言葉として、黒田官兵衛の「水五訓」の一節「障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり」を紹介され「苦しいことがあっても努力を重ね乗り越えていってほしい」と話されました。



編集後記

▼年度が新しくなり、恒例のことではありますが、四月は職員員の異動がありそれぞれスタートをしています。広く町民が期待をしているところで、今回、県から観光行政を担当する課長の着任があり、これから新風を吹き込んでほしいと思うところで

▼一般の団体・企業でも転勤の時期は悲喜こもこもの思いがありますが、それぞれ町民の皆様も新体制にご協力を願っています。

▼明治時代、西洋音楽から遅れていた日本は、米国から音楽教師を招きその指導の下、洋楽から日本人に親しみ易い曲を選び、それに日本語の歌詞を付け、教材としたそうです。その中の一つに「仰げば尊し」が有ります。百年以上前に米国の原曲をふまえて歌詞を付けた歌ですが、最近歌われなくなった事は寂しい気がします。

▼広報委員会としてこの二年間皆様のご協力ご愛読に感謝申し上げます。引き続きご理解とご支援いただきますようお願い申し上げます。